

- 第6学年 社会科 単元名「縄文のむらから古墳のくにへ」
- 令和3年6月28日(月) 5校時 多目的室 指導者 渡辺 紀子
- 本時の学習(8/8)
- 本時で身に付けさせたい資質・能力と手立て
 - 既習の知識を活用して、縄文時代から古墳時代についての理解を深める。
 - 手立て……時代の特徴をシンキングツール(情報分析チャート)にまとめ話し合う。
- 展開

活動や発問・評価	時	ノート・ワークシート・ICT活用
○既習事項を押さえる。 <めあて>縄文と弥生・古墳時代の違いは何か。 1. 画像の土偶と埴輪が身に付けている物や体の様子などに着目して、両者の違いを探す。 【シンキングツールに書いていく。】 S:土偶の胸とおなか→T「何に使ったんだろう。」 S:埴輪の鎧や剣→T「なぜ武装していたのかな。」 2. ペアや近くの友達と確認する。 S:気づかなかった意見を付け足そう。 3. 全体で情報を確認し、時代の違いを理解する。 T「○○さんの縄文時代の特徴は何か。」 S:土偶は安産や健康を祈るものだから、生きるのが厳しい縄文時代を示していると思います。 T「どうして生きるのが厳しかったのかな。」 S:食べ物がなかったり、長生きできなかったりしたからです。 T「なぜかな?」…等 T「仲間関係はどうだったかな?」 S:協力して獲物を捕ったり木の実を取ったりしていた。 T「じゃ、互いの関係は?」 S:同じ。 S:対等って言うんだよ。 S:でもね、弥生時代に米づくりが始まって争いが起こったんだよね。 S:そう、米の奪い合い。 S:土地や水、鉄器も奪い合ったよ。 S:だから、弥生から古墳時代に入ってから身分の差も生まれたんだよね。 S:権力が強い王や豪族は中国と交流したり、渡来人も呼んで、もっと強いくになったよ。 T「ずいぶん変わったけどきっかけは何だった?」 S:弥生時代の米づくりだね。 <まとめ>弥生時代に始まった米作りをきっかけに、食料に困ってはいたけれど仲よく協力して生きていた縄文時代から、米や土地を奪い合って争い身分にも差が生まれて大きくなっていく古墳時代へと変わった。	5 15 10 10 5	<めあて>をノートに書く。(S) 1. 時代毎に既習内容を整理するために、教師が送った情報分析チャートのシンキングツールに、土偶と埴輪から思い出した各時代の特徴を入力していく。(S) 2. 学びを再構築できるように、自分が気づいた情報をペアの友だちに紹介したり、提出箱の回答を共有して他の友だちの考えから新たな情報を付け足したりする。(S) 3. 理解をより深める手がかりとなるように、提出箱の児童の回答を見ながら、多面的・多角的にまとめている児童を意図的に指名していく。(T) クラス全体の意見を確認したり考えたりしながら、時代の特徴をノートに書く。(S) 評価:縄文のくらしが米づくりの始まりによって、争いの起こった古墳時代のくらしに変わったことを理解している。(知識・技能) [ノート・シンキングツール] <まとめ>をノートに書く。(S)
<板書> め 土偶 女の人の体 →子どもの安産祈願 食べ物が不安定 埴輪 よろい、剣 →戦いがあった 権力者・くに 時代の様子が全然ちがう		土偶 縄文時代 ・多産祈願 ・健康を願う ・生死が不安定 埴輪 古墳時代 ・戦いがあった ・身分が分かれた ・技術が高まった ○(米づくり)がきっかけで時代が変わった ま
<授業後にイメージする児童の姿> 縄文時代では生きることが厳しかったけれど人々は仲よく暮らしていたこと、弥生時代の米づくりをきっかけに争いが起こるようになり、貧富や身分に差が生まれて古墳時代へと変わっていったことが分かる。		